

# ヨコワ来遊予報調査

榊 純一郎

## 【目 的】

ヨコワ（クロマグロ幼魚）の主漁期（12月～翌年4月）前に、本県におけるヨコワの漁況を予測し、本県漁業者へ情報提供する。

## 【方 法】

本県に先立って漁場が形成される各県の漁獲データを収集し、本県の漁期全体のヨコワ漁況を予測する。

### 1 漁獲データ収集先

北部太平洋まき網漁業協同組合連合会

新潟県水産海洋研究所・鳥取県水試・島根県水産技術センター・山口県水産研究センター・高知県水試・長崎県総合水試

### 2 漁況予測手法

#### ①予測値の計算

長崎県の漁期始め2ヶ月間の漁獲量を説明変数、本県の漁期全体のヨコワ漁獲量を目的変数とする単回帰分析により漁期全体の予測値を算出。

#### ②水準分け

算出した予測値を低・中・高の各水準の範囲にあてはめ、当該年度の来遊水準を予測。

## 【結果及び考察】

従来、長崎県の漁期始め2ヶ月間の漁獲量と本県の漁期を通じた漁獲量との間に高い正の相関が見られたが、平成19年度漁期は長崎県は好漁だったものの本県は不漁に終わり、現状の回帰式では平成19年度漁期の不漁を説明できないばかりか、同漁期のデータを加えて両者間に相関が見られない状況となった。そこで説明変数を増やすべく平成19年度漁期の漁獲を制限した要因を検討したが良い説明変数は得られず、従来の予測式と各県の漁獲情報を総合的に勘案し、来遊水準を予測した。

その結果、長崎県は11月までにほとんどヨコワの漁獲が無く、本県の平成20年度漁期のヨコワ来遊量は低水準と予測し、以下のように発表した。

- ①漁獲量は、前年（10トン：低水準）並で、平年（70トン：中水準）を下回り、**低水準（20トン以下）**となるでしょう。
- ②主漁期は**1～4月**で、**1月は2～3kgサイズと1～2kgサイズの双方が、2月以降は1～2kgサイズが主体**となるでしょう。

平成20年度漁期（平成20年11月～平成21年3月）は、南薩3漁協におけるヨコワ漁獲量は11.7トンとなり、予報どおり低水準となった。